

中学生の自律性を促す指導に着目した授業の構築

学籍番号 229344

氏名 荒金花加

大学院主指導教員 田中真秀

大学院副指導教員 吉田茂孝

1. 問題意識と課題設定

本研究は、生徒の主体的な学びを成立させるために考慮すべき点について検討する。

子供たちが急激かつ様々に変化する社会の中で生きていけるように、自己や他者と向き合いながら、社会を作るための資質・能力を育むことが求められている。そして、生徒が学ぶ意義を社会と結びつけて理解し、自己調整しながら主体的に学び続けられることが必要とされている。

一方で、学校現場では生徒が積極的な学習は見られるけれど、主体的でかつ自己調整的な学びはあまり見られていない。そこで、学校教育の中で教師として主体的な学びを成立させることに着目し、そのために考慮すべきことは何か授業実践に基づいて検討する。

主体的な学びについて考察するうえで、自分で行動を選択・決定し、調整する力である自律性に着目した。自律性向上の手立ての一つとして、「課題を選択させ、遂行を支援する」という方法がある。この課題選択を設けた学習方法は、生徒が自分で考えて選択できるような機会となることから、自律性支援の中でも生徒が自ら取り組む課題を選択し、遂行できるように支援することに着目した。そして、課題選択に関して、結果期待の形成、自己効力感の向上、自己省察による課題への価値観の形成が影響すると見て、これらの観点から生徒の自律性向上の支援となる授業について検討する。

2. 自律性支援に着目した授業実践

2.1 自律性支援に着目した授業実践における工夫

生徒の主体的な学びの鍵となる自律性向上に向けて、(1)生徒が結果を期待できる課題の提示と、(2)その課題を遂行できるだろうという自己効力感の向上の支援、(3)課題の必要性を見い出すための自己省察の支援の3点に着目した授業構築を行う。

生徒が結果を期待できる課題については、①課題達成のモデルの観察を行い、生徒自身が課題に取り組む前に結果期待を形成するモデリング、②単元を通して完成する、生徒にとって適切な難易度となる課題づくり、③授業への目標の提示の取り入れを行う。

課題に対する自己効力感の向上に関しては、活動前の生徒の成功を期待する声掛けと活動中の努力や能力に対するフィードバックを状況に応じて適切に行う。

自己省察では、毎授業の最後に「できたこと」「難しかったこと」「次頑張りたいこと」をリフレクションシートで振り返らせる。内容に応じ、リフレクションシートの内容に対するフィードバック、リフレクション自体に対するフィードバックを行う。

2.2 工夫に基づいて構築した授業実践

以下の4点に基づいて、生徒の自律性の支援に向けた授業構築を行った。実習校の教科指導や生徒に関する情報等が含まれているため、要旨への記載は省略する。

- (1) 単元を通して使用するワークシートの活用
- (2) リフレクションシートを使った学習の振り返り
- (3) 取り組むステージとレベルを設けた単語シート
- (4) 代名詞における指導の工夫

3. 自律性支援に着目した実践の成果

結果期待に関しては、生徒が向社会的及び達成への学習意欲を抱き、自己有用感や有能感を抱く様子が伺えたが、それらの感情が結果期待に発展するかどうかは課題である。

自己効力感に関しては、意欲的でなかった生徒が学習に取り組もうとする様子が伺えた。このような観察から得られた知見を手がかりに、①自己効力感を感じられるような課題や、教師の声かけ・周りの生徒へのモデリングから自己効力感を抱き、リフレクション活動を通して成果への気付きを自信に変えられるような支援及び、②その自信を次の学習時の自己効力感へと変容させるフィードバックが重要なのではないかと考察した。

自己省察に関しては、リフレクション活動を通して、課題選択し、自ら課題に取り組もうとする様子が継続的に見られた。生徒が自分の学習状況を理解し、目標を立てる機会を設けたことで、生徒がワークシート等の課題に取り組む前に少なからずその課題に取り組む必要性を感じることが出来たのではないかと考える。

4. 残された課題とその展望

生徒が学習に主体的であることとは、生徒が教師によって提示される教材の中でも、学習を振り返る際に感じた課題意識を乗り越えるために、自分に必要だと考える課題を選択し、学びに勤しむことだと考える。そして生徒が授業以外の場面で、自分の学習を振り返り、学ぶ必要があると考えた内容を、自分で自由に学習できるように支援することが生徒の主体的な学びの支援として教師が出来ることだと考える。

そのために、①授業の中で学習を振り返る機会を設け、②学習に取り組むうえで明確に学習に取り組む目的や目標を持って、学びに向かうことができるように支援し、③生徒が取り組む課題に対して自己効力感を抱くように促す。加えて、生徒が授業を通して自律的に学習する方法や考え方を伝えていくことが、教師として生徒の主体的な学びを保障するために重要となる点だと考える。この点の具体的な方策について考え、生徒の自律的かつ主体的な学びについて追究することを、今後の課題とする。